

ソロプチミスト函館との懇親会



◎ 出席報告

会 員 数	66名	出 席 率	函 館 北 9月30日	89.06%
出 席	19名		函 館 東 9月29日	92.77%
欠 席	47名		函 館 9月24日	96.08%
他クラブ出席	38名		函館五稜郭 9月25日	100.00%
出席合計	57名		函館亀田 9月28日	92.16%
除 外 者	2名			

次回・10月21日
プログラム

「いかのお話」

函館製網船具㈱顧問 鈴木 恒由 氏



The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

クリフォード・L・ダクターマン 国際ロータリー会長テーマ

まことの幸福は人助けから

REAL HAPPINESS IS HELPING OTHERS

伊藤康男会長 今年度のテーマ

“ロータリーは楽しく、ロータリーは優しく、そしてわずかの厳しさを、”



望千軒残雪(昭和55年作)故池田甚三郎画伯

《第1416回例会》 第16号 10月21日(水)

本日のプログラム

「いかのお話」

函館製網船具㈱顧問 鈴木 恒由 氏

★会 長 伊藤 康男

★幹 事 薮下 義晴

例会場：函館国際ホテル 〒040 函館市大手町5-10 TEL 23-5151
 例会日：毎週水曜日 12:30～13:30 事務所：函館市大手町5-10 二チロビル3階 23-3870

1992～1993

〈第1415回例会〉 第 15 号

10月14日の記録

- ◎司 会 伊藤 康男 会長 ◎齊 唱 それでこそロータリー
- ◎ビジター 宇都宮南R.C.米光啓弥君、函館R.C.中澤郁雄君、函館東R.C.平形隆司君・山野孝良君・山崎典夫君、函館五稜郭R.C.上出眞世君・杉浦百秋君・越前達郎君・内山盛一君・佐藤一男君、函館亀田R.C.松崎和夫君
- ◎ゲ ス ト 北海道東北開発公庫函館事務所所長 小川 東吾 氏

★誕生日 伊藤会長(2日)、佐藤(薫)会員(29日)

★結婚祝 佐藤(薫)会員(1日)、飯田会員(6日)、森(秀)会員(9日)、藤野会員・平野会員・会沢会員(10日)、小笠原会員(11日)、佐藤(輝)会員(13日)、山本会員(15日)、大村会員(16日)、佐々木会員(26日)

◎会長報告 伊藤 康男 会長

○新入会員の紹介 推薦者：佐藤(輝)会員より略歴等の紹介があり、つづいて新入会員浅海 譲氏が挨拶しました。

(職業分類：電力供給 北海道電力函館支店営業部長)

- 友好クラブ和歌山城南R.C.会長から挨拶状と会報、月信が届いております。移動が続いてご紹介が遅れましたが回覧致します。
- 千葉港R.C.からも計画書と調印の時の会報が届いております。
- 先般ビジターで来られた東京八王子の方にバナーを差し上げました。返礼として東京八王子のバナーが贈られて来ましたので回覧致します。
- 当クラブのバナーが新しくなりましたので回覧致します。

◎幹事報告 薮下 義晴 幹事

- 公民館による文化講演会のご案内がきています。10月27日(火)午後6時、ハーバービューホテルにおいて開催される。参加希望者は幹事迄連絡して下さい。
- 来年の国際大会はオーストラリア、メルボルで開催されます。5月23日～5月26日、ご案内がきています。参加希望者は幹事まで連絡をして下さい。

- 函館R.C.10月22日(木)夜間例会、函館亀田R.C.10月26日(月)移動例会となります。
- 先般来ご案内の和歌山城南R.C.千葉港R.C.両友好クラブ訪問の参加について、ご返報を早めにお願ひ致します。
- 活動計画書を配布しましたので、よろしくお願ひ致します。

◎親睦活動委員会 山崎 晃司 会員

ニコニコBOX投入報告

川村昭会員……BOXに協力。

中里 会員…… ”

佐藤(輝)会員……新入会員浅海氏の入会を記念して。

新 会員……会報に写真がのっていました。

伊藤 会長……誕生月です。

斉藤 会員……BOXに協力。

小竹 会員…… ”

近藤 会員…… ”

青山 会員…… ”

飯田 会員…… ”

石上 会員…… ”

◎卓話 「観光都市函館について」

北海道東北開発公庫函館事務所所長 小川 東吾 氏

今日の与えられましたテーマは「函館観光の現状と問題点」ということですが、まず先にお断りしなければならないのは、この4月函館に赴任してきたばかりでして、開発公庫に昭和40年に入庫して以来、北海道勤務はこれが初めてであるという点でありまして、実は余り北海道に馴染みがありません。従いまして、これからお話する事柄は私の独断に満ちているということでお許し願ひしたいと思います。

それではまず、函館観光の現状認識についてお話しをしたいと思います。

函館市の観光入込み客数は、ご案内のとおり昭和56年の252万人から、昨年の平成3年には506万人と、ここ10年間で約2倍となっております。

この中身を見ますと、昭和61年迄は250万人台で推移して参りましたが、62年には300万人台乗せとなりまして、63年は396万人、続く平成元年は429万人

(10.9%)、2年には465万人(8.4%)、そして3年は遂に念願の506万人(9.0%)の大台に到達した訳であります。

この推移を見ますと、昭和62年以降に急激に伸長したことが大きな特徴となっております。つまり、63/3の青函トンネル開通前の連絡船フィーバー、連絡船最後の別れ、JR津軽海峡線の開業と青函博の開催(120万人)等、一連のトンネル効果を契機として、一気に一気に増勢に転じていることが分かります。

しかし、青函博以降の平成元年以降についても、引き続いて年率8%以上の増加を見せていることが、函館観光の勢いであります。

この要因について考えて見ますと、

元年は北海道ハマナス国体の開催に伴う誘客増がありましたし、2年は湾岸戦争の影響から海外旅行を取り止めて、国内、中でもJTBのアンケート調査でも圧倒的に希望の多い北海道旅行に振り替え、その観光ルート上にある函館にお客が入ってきた事、等があげられます。

3年は雲仙・普賢岳の噴火がありまして、九州方面に行くはずの観光客が、北海道方面に鞍替えしたことがあったこと、そして基本的には戦後最長の平成好景気に支えられたことが大きい。また、引き続く北海道観光ブームがその底流にあった事によるものであると判断されます。

その他には、先程申し上げました外部要因ばかりでなく、函館独自の誘客戦略に係わるハード・ソフト面の充実等が効を奏したことも、非常に大きな要因と考えられます。

これは、3つの要因に分れますが、

第一は航空機などの輸送能力UPによるもの

第二は観光資源・施設の整備充実によるもの

第三は観光客誘致対策や各種宣伝効果の浸透によるもの、が挙げられます。

次に、函館観光の問題点について触れてみたいのですが、先にお話したとおり、ここ数年で飛躍的に入込み数を伸ばしてきた原動力は、まさにハード面の充実でありました。車の両輪でありますソフト面の立ち後れが、まず指摘できるのではないかと思います。

つまり、接遇等のホスピタリティの面の充実が追い付かないことであります。北海道の観光も、従前の大型旅館の団体バック旅行から、逐次友人同志、家族ですとか小グループ個別の旅行へと形が変容してきております。この個別の旅行に

対する対応、すなわち、心のこもった冷えていない暖かい料理ですとか、ゆったりとした部屋等を提供したり、女性をターゲットにしたりする等といった、新たな形態の宿泊施設のハード、ソフト面の構築が求められます。「バック旅行から個人客層」への脱却、色々なニーズに対応出来るフレキシブルな体制を図る要があります。

北海道の場合はオンシーズンとオフシーズンが極端となっております、とくに温暖化現象からスキーの稼働日数も少なく、雪祭りも出来ない函館にありましては、その落差が激しく、オンシーズン7に対してオフは3の割合となっております。このような特異性から、エイジェントに集客を任せきりの対応は、今や時代遅れとなってきております。先の個人客層の誘客は東北の事例で見ますと、顧客リストが充実されておりまして、年始や暑中見舞い等の挨拶の励行や、連泊する場合は同じ食事を出さない等のきめ細かい対応がなされております。これらのソフトの蓄積が函館の場合欠けているように思われます。

観光事業が函館の産業経済に貢献し、安定的な成長を継続するには、観光客以外の層へ裾野を広げ、底固い固定客層を掴む方策が必須ではないかと考えます。このためには、観光以外の産業、第二次産業の振興が必要であります。第二次産業、特に加工組み立て型産業の誘致を行い、これを成長させることにより、ビジネス客が集まり、このビジネス客を通じて底固い固定客層を掴み、跛行的なシーズンを是正する必要が有ります。

平成2年の国勢調査による産業別就業者構成を見ますと、函館市の第3次産業のウエイトは76.3%でございまして、釧路、旭川の71%に比べ5ポイントも多い状況であります。第2次産業はどうかと云いますと、昭和40年、当時造船が活発であった頃は29.2%ありましたが、それからどんどん減りまして、今は21.0%まで落ち込んでおります。

政府の緊急景気浮揚対策の一環として、わたしどもの融資額も500億円増加することになりました。しかし、それでも、今申し込みのある需要額には足りません。それは、やはり東北の加工組み立て型の企業の申し込みが殺到していることに他なりません。

これまで、私どもの融資実績は北海道4に対し東北は6の割合できましたが、本年度は北海道の需要が少ないため、北海道は3.5へと、東北は6.5へと、また格差が広がる様相にございます。

このような観点から函館観光の今後を考えますと、ハード面の充実、就中設備投資の停滞は目先が変わらない訳ですから、3年度の560万人並みの入り込み数自体は本年度は余り増減なくクリアー推移したとしても、問題はその先の来年度以降はどうかと云うと、余り期待出来なくなるのではないかと思われる。

函館観光の後は、丁度いま曲がり角に差し掛っている時期と思います。先程の加工組み立ての企業誘致はいま少し時間が係るのなら環境整備にまず取り込むこと、そして観光関連の設備投資を旺盛に行なうことが必要と思われれます。

以上で、今後他の観光地との差別化を図るためのキーワードは「ホスピタリティ」「環境」と、老人が住む街の先駆者となるべく「福祉」の手厚さが鍵ではないかという事で、私の講演を終わらせて頂きます。

◎ 出席報告

会 員 数	66名	出 席 率	函 館 北 10月7日	92.06%
出 席 席	41名		函 館 東 10月6日	95.29%
欠 席 席	25名		函 館 10月1日	97.58%
他クラブ出席	17名		函館五稜郭 10月2日	100.00%
出席合計	58名		函館亀田 10月5日	96.15%
除 外 者	3名			

次回・10月28日

「この頃思うこと」

プログラム

NHKチーフディレクター 保坂 浩 氏



The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

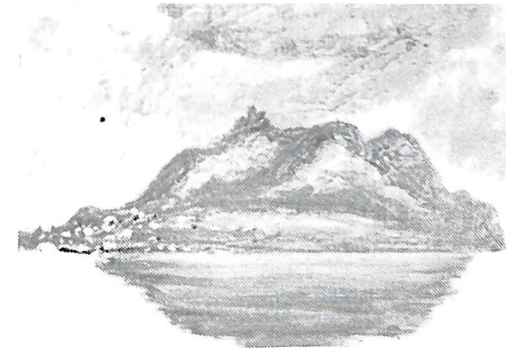
クリフォード・L・ダクターマン 国際ロータリー会長テーマ

まことの幸福は人助けから

REAL HAPPINESS IS HELPING OTHERS

伊藤康男会長 今年度のテーマ

“ロータリーは楽しく、ロータリーは優しく、そしてわずかの厳しさを、



朝の函館山(昭和48年作)故池田甚三郎画伯

《第1417回例会》 第 17 号 10月28日(水)

本日のプログラム

「この頃思うこと」

NHKチーフディレクター 保坂 浩 氏

★会 長 伊藤 康男

★幹 事 藪下 義晴

例会場：函館国際ホテル 〒040 函館市大手町5-10 TEL 23-5151
 例会日：毎週水曜日 12:30～13:30 事務所：函館市大手町5-10 ニチロビル3階 23-3870